

## 2020 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

## 県立大学

## 教 育

## ◆項番 1 新教養教育カリキュラムの構築及び5学部連携教育の推進

- ・全学部連携型授業2科目における各学部の教員配置や、文理にわたるテーマでの講義やディスカッションを組み込んだ授業内容等を決定し、文科省へ届出

自己評価：Ⅲ

## ◇項番 8 教育研究組織のあり方の検証及び必要に応じた見直し

- ・新教養教育カリキュラムに即した授業実施体制の確定
  - 全学部連携型授業2科目における各学部の教員配置を決定
  - 複数言語教育体制の構築のため、ポルトガル語ネイティブ教員を採用
- ・センター組織体制の見直し
  - 留学支援室：国際交流室から改称し、留学支援に特化
  - 留学生対象科目委員会：体系的な留学生教育プログラムの策定等を実施
  - 相談サポート専門部会：学生相談及び障害学生支援のサポート体制の強化
  - 研究推進局：研究力の結集と研究成果の一元的発信を図る研究所新体制の新設を決定

自己評価：Ⅳ

## 研 究

## ◆項番 18 学部・研究科横断型の学際的研究や、産業界・地域社会等との

## 連携による高度で挑戦的な研究を積極的に推進

- ・学長特別教員研究費「共同研究（他学部・産学公）」の新設による研究推進
  - 教育福祉学部教員による「COVID-19による外国籍住民の生活危機と対策をめぐる基礎研究」
    - 外国語学部教員と連携し、技能実習生などにインタビューを行い、日本での生活、就労等の経験やCOVID-19の影響を調査
  - 外国語学部教員による「愛知県における外国人診療および医療通訳に関する研究」
    - 看護学部教員、他大学、県と連携し、「あいち医療通訳システム」の利用実態、日本語でのコミュニケーションが難しい外国人患者・家族への対応方法などを研究
  - 看護学部教員による「コウモリの超音波採音と環境DNAによる分析を組み合わせた生息調査」
    - なごや生物多様性センターと連携し、地域の生態系の調査に遺伝子解析の手法を導入して、生物多様性の観点から健康と疾患を捉える研究に着手

【指標】（学長特別教員研究費「複数学部にまたがる研究」または「共同研究(他学部・産学公)」を1件以上採択)

⇒「共同研究（他学部・産学公）」を3件採択

自己評価：Ⅳ

## 地域連携・貢献

## ◆項番 22 県との意見交換会の実施など、地域課題への対応に向けた取組の推進

- ・県の連続講座「あいちシルバーカレッジ」のカリキュラム作成などを通し、課題解決への具体的な対応方法を検討
- ・県の「認知症に理解の深いまちづくり」事業の一環として、長久手市社会福祉協議会との連携による「長久手の認知症カフェ”喫茶オレンジ”」を開催

【指標】（愛知県の関連部署との意見交換会を1回以上、県との共催事業・貢献活動を1件以上）

⇒意見交換会を3回、共催事業・貢献活動を4件実施

自己評価：Ⅲ

## ◇項番 24 社会貢献活動に関する情報発信及び地域の課題解決等につながる活動支援

- ・災害弱者対策・支援プロジェクトによる取組
  - 5学部長登壇のシンポジウム開催と、その場における県民との活発な意見交換
  - 学術講演会や連続公開講座などの関連企画の開催
  - 各学部における災害弱者対策・支援の取組を動画にまとめ、本学Webサイトや県主催のSDGs促進フェア「SDGs AICHI EXPO 2020」などを通して積極的に発信
- ・日進市提案型大学連携協働事業として、教育福祉学部教員と学生が障害者への災害時避難に関するアンケートを行い、災害時パンフレットを作成して市民への啓発活動を実施
- ・認知症高齢者の災害時支援体制の構築に資するため、県と連携協定を締結

自己評価：Ⅳ

## その他

## ◇項番 26 国際戦略方針に基づくアクション・プランの策定及び実施

- ・看護学部がナワミンタラティラート大学（タイ）とオンライン学術交流を実施
- ・国際文化研究科の院生と教員がタシケント国立東洋学大学（ウズベキスタン）主催の学術フォーラムで研究発表を実施

自己評価：Ⅲ

## ◆項番 29 海外からの研究者・留学生の受入施設等の充実

- ・熊張第2公舎を留学生のシェアハウスとして改築する計画を策定し、シェアハウスの運営や利用に係る方針及び申し合わせ案を作成

自己評価：Ⅲ

# 2020年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番

## 芸術大学

### 教育

#### ◆項番 30 実技力と芸術性をもつ人材の育成に向けた魅力ある学部教育の推進

- ・美術学部：文化財保存修復研究所の高度な技術や知見を専門教育に反映
- ・音楽学部：感染症対策を実施した上での演奏会の開催、動画配信による公開など、新たな形や体制での実践教育を推進

【指標】（アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業を毎年4件以上実施）

⇒アーティスト・イン・レジデンス事業は全て中止、外国人客員教員事業2件を実施

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 33 特色ある教育研究の展開に向けた専攻・カリキュラムの見直しとFD活動による教育力の向上

- ・メディア映像専攻カリキュラムの原案を承認するとともに、その根幹となる専門科目に対応する教員3名の採用を決定

【指標】（2022年度に美術学部の専攻・領域を見直し、新たにメディア映像専攻を開設）

⇒予定通り、2022年度開設の見込み

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 34 キャンパス安全・利便性向上策の検討・推進と老朽化施設の整備促進

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、スモークマシンを用いた学内施設の換気機能調査や換気補助装置の設置を行い、早急に対面授業を再開

自己評価：Ⅳ

#### ◆項番 36 在学生へのキャリア・経済的支援と卒業生・修了生の自立支援

- ・既卒者の応募可能企業を多く募り、「芸術学生のための合同企業説明会」をオンラインで開催（参加学生：135名・過去最多）するとともに、未内定の4年次生の救済措置を実施

【指標】（キャリアサポートガイダンスを毎年25件以上実施）

⇒キャリアサポートガイダンスを8回実施

自己評価：Ⅲ

#### ◇項番 38 教育研究の特色・魅力の発信と効果的な入試広報活動の展開

- ・Webオープンキャンパスを実施し、特設サイトにおいて各専攻・コース毎にガイダンス動画を作成し、YouTubeにて公開（再生回数は多いもので、3,600回に達し、昨年度の来場者数（2日間で2,202名）を上回った）

自己評価：Ⅲ

### 研究

#### ◆項番 39 教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元及び国際的な発信

- ・感染対策を徹底するとともに、新たな手法による開催方法を随時検討し、美術学部における教員展のVR公開、音楽学部におけるコンサート音源のCD制作などを実施
- ・国際的な活動が制限される中、版画分野における油画専攻教員の中国やロシアにおける展示の実施や、作曲専攻教員による海外大学とのオンライン交流を実施

自己評価：Ⅳ

#### ◆項番 40 研究支援体制の整備、企業との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組

- ・研究施設・設備の整備・強化として芸術学専攻の移転、油画棟への光ファイバーの増設を実施

【指標】（科学研究費及びその他の助成金を毎年20件以上申請）

⇒申請件数：30件（うち、採択9件）

自己評価：Ⅲ

### 地域連携・貢献

#### ◆項番 42 教育研究成果の地域還元、県民が芸術に親しむ機会の創出

- ・東桜小学校での黒板アートの実施、栄徳高校との芸術文化交流に関する協定の締結、中部圏イノベーション推進機構との連携による受託事業「MUSIC in the GARAGE!」（ジャズコンサート）の開催など、地域と連携した様々な取組を実施

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 43 栄サテライトギャラリーの開設・活用推進

- ・「収蔵品展Ⅰ・Ⅱ」など、多彩な展覧会を8回実施

【指標】（栄サテライトギャラリー入場者数を第三期最終年度に5,000人以上とする）

⇒入場者総数：1,699人（※4月～8月は新型コロナウイルス感染症の影響により閉廊）

自己評価：Ⅲ

### その他

#### ◆項番 45 タイムリーかつ効果的な広報の推進による芸大のブランド、知名度向上

- ・大学の特色や魅力を発信するため、「ブランディングのための指針2020」を作成し、英語版を含む大学Webサイトのリニューアルに向けた具体的な内容を検討

【指標】（大学Webサイト・SNSのアクセス数を第三期最終年度に150万件以上とする）

⇒アクセス数1,583,521件（大学Webサイト、Facebook、Twitterの合計）※達成

自己評価：Ⅳ

# 2020 年度における業務実績の概要

## 法人運営

### 法人・大学運営

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番

#### ◆項番 46 効果的・効率的な法人・大学運営の推進

- ・迅速に新型コロナウイルス感染症への対応を行うため、理事長、両学長・副学長等を構成員とするコロナ対策本部会議を設置し、感染防止対策、学生支援策を検討・実行
- ・理事長及び学長が優先すべき事業等の指示を行いながら、2021 年度予算編成を実施

【指標】(第三期最終年度までに理事長・学長によるトップマネジメント事業費を業務費総額の1%以上確保)

⇒2021 年度のトップマネジメント事業費予算額：19,132 千円（事業費総額の 1.03%）

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 48 様々な連携による大学の魅力づくりの推進

- ・両大学教職員を対象に「2 大学の連携に関するニーズ調査」を実施し、結果を公開することにより、連携意識を醸成するとともに共同研究を促進
- ・両大学の共催によるシンポジウム「地域の文化財ネットワークを考える—瀬戸・長久手・豊田エリア—」を開催

【指標】(2 大学連携事業を検討・推進するための会議を毎年 2 回以上開催)

⇒2 大学連携推進会議を 2 回開催

自己評価：Ⅲ

### 人材の確保・育成

#### ◆項番 52 大学を支える事務職員の育成

- ・名古屋大学への職員派遣を引き続き実施するとともに、2021 年度に愛知県及び公立大学協会へそれぞれ 1 名を派遣することを決定  
(新型コロナウイルス感染症の影響により、海外派遣研修は全て中止)

【指標】(第三期最終年度までに海外派遣及び他機関への派遣研修に従事した職員の割合を 30%以上にする)

⇒2020 年度末現在の割合：21.9%

自己評価：Ⅲ

### その他

#### ◆項番 59 良好で安全・安心な教育研究環境の維持と情報基盤ネットワークの強化

- ・新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、各キャンパスの換気機能強化（サーキュレーターや網戸の設置等）、トイレの手洗い自動水栓化等を緊急的かつ柔軟に実施
- ・次期情報基盤ネットワークの構築のため、専門業者とランドデザイン策定及びシステム更改仕様書作成支援業務を委託契約

自己評価：Ⅲ

## 自己評価結果の概要

2020年度実施項目			
I 実施していない	II 十分には実施していない	III 十分に実施している	IV 上回って実施している
未着手	着手はしたが 目標に到達していない	目標を達成している	目標を上回って 実施している
0 項目	0 項目	56 項目 (19 項目)	6 項目 (4 項目)
0%	0%	90.3%	9.7%

※( )内は重点計画数

中期計画の大項目・中項目	項目数	I	II	III	IV
1 教育研究等の質の向上	45 (19)	0	0	39 (15)	6 (4)
(1) 県大	29 (9)	0	0	26 (8)	3 (1)
1-1 教育	17 (3)	0	0	16 (3)	1
1-2 研究	4 (2)	0	0	3 (1)	1 (1)
1-3 地域連携・貢献	4 (2)	0	0	3 (2)	1
1-4 その他	4 (2)	0	0	4 (2)	0
(2) 芸大	16 (10)	0	0	13 (7)	3 (3)
1-1 教育	9 (5)	0	0	8 (4)	1 (1)
1-2 研究	2 (2)	0	0	1 (1)	1 (1)
1-3 地域連携・貢献	3 (2)	0	0	3 (2)	0
1-4 その他	2 (1)	0	0	1	1 (1)
2 業務運営の改善	9 (3)	0	0	9 (3)	0
3 財務内容の改善	2 (0)	0	0	2	0
4 自己点検・評価及び情報の提供	2 (0)	0	0	2	0
5 その他業務運営	4 (1)	0	0	4 (1)	0
合計	62 (23)	0	0	56 (19)	6 (4)

※( )内は重点計画数